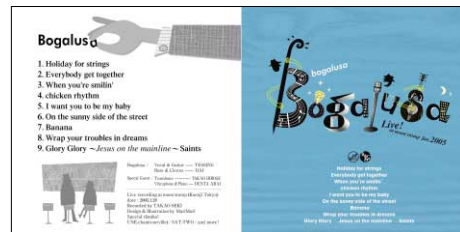
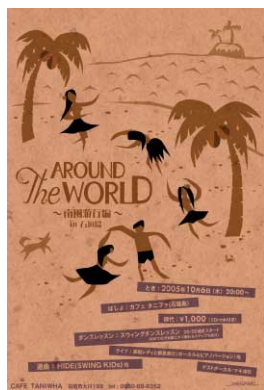


山形麻里子



3月22日夕刊(東京・大阪・西部)



子どものころから絵を描くことが好きだった。「ほんとにいつも絵を描いていた記憶があります。描くところめられるので、それがうれしくて、という感じでした」。絵に関する仕事があったから、美術大学に進んだのはごく自然の選択だった。

作品には独特の「癒(いや)し感」がある。本人は配色を含め、「そんなことは考えていない」という。ただ、アナログ感にはこだわらる。パソコンも使うが、コンピュータだけでは温かさが伝わらないんですよ。線がカチカチした無機質になるんですよ。手書きの部分を加え、「温かみや柔らかさを大事にしたイラスト」に仕上げている。

目指しているのは、「手書きの手法とコンピュータを仲良くさせること」。旅行系のポスターなども、「写真とイラストを組み合わせてやってみたい」という。

友人とウクレレでスタンダード・ジャズを演奏するバンドを組み、ライブ活動もしている。その音楽からモイラストと同じような「ぬくもり」が込められているに違いない。

やまがたまりこ/1977年 北海道生まれ、女子美術大学芸術学部デザイン学科卒。デザイン会社、印刷会社を経てイラストレーター。
<http://www.mari-mari.jp>